

ニュースレター

奈良市立一条高等学校 Yuki K.

カンボジアスタディツアーを通じて、
私は、「夢を持って学んでいくことの大切さ」を学びました。
それは、寺子屋に通っているある女の子との出会いがきっかけです。

復学支援クラスに通っている女の子のお家に訪問した時のことです。彼女はリエンダイ寺子屋の近くにある農村で暮らしており、タイへ出稼ぎに行っている母親による仕送り金、約50ドル（日本円にして5500円程であり、これは一般的なカンボジアの月収の1/4に値する）、というわずかな収入を頼りに暮らしています。もともと公立学校に通っていましたが、家の引っ越しのため学校を中退。その後は学校に行っていませんでした。ですが寺子屋の存在を知り、現在、復学支援クラスにて小学5年生の内容を学んでいます。その彼女に、次のことを尋ねました。

「将来の夢は何？」と。すると、
「お医者さんになること。」
と答えてくれました。そして、
「どうしてお医者さんになりたいの？」
と聞きました。すると、こう答えてくれたのです。

「私の村には多くの人が暮らしている。
でも、お医者さんが少なくて困っている人が沢山いる。
その人達を救うためにも、寺子屋で精一杯学んで、
お医者さんになり、救ってあげたい。
そして、離れて暮らしている弟を学校に行かせてあげたい。」



私はこの言葉を聞いた時、心が震えました。彼女は僕と同じ15歳です。
彼女だけではありません。寺子屋に通っている他の生徒にも共通して、一人一人違った夢を抱いており、その夢を叶えるために寺子屋で学んでいるのです。そうして、彼女を含め、寺子屋の生徒は「今の家族や村の現状をなんとかするために学びたい」「自分が興味を持っていることを精一杯学びたい」という強い思いを原動力に、学んでいました。そうして、大きな夢を持った生徒が寺子屋を卒業し、カンボジアの抱える問題を解決していくのです。このことから、「教育を充実化させることは、カンボジアの未来をよりよ

<第6回高校生カンボジアスタディツアー>

くする。」と私は考えました。その上で、お金や物による支援だけではなく、「教育を受ける機会」を増やし、多くの子供たちが「学ぶ志」を見つけることができるような活動を行なっていくことが大切であると感じました。

この「学び」に対する姿勢は、今の私には欠けていると感じました。目の前に学べる環境があるのが「当たり前」で、テストや成績にとらわれて学びがちになってしまう。でもそうではなく、自分が興味を持っていることを学び、それが実際社会ではどのように関連性があるのか考えながら学ぶことが大切だと感じました。

そうした上で、カンボジアが抱える教育問題のみならず、日本の教育の現状もより良くしなければならぬと思いました。

カンボジアには今もなお貧困や児童労働などの理由で学校に行けない子供達、文字が読めない大人が多くいます。その人たちが、もし教育を受けることができ、夢を抱いて学ぶことができたら、カンボジアはより良い国へと成長するでしょう。

そうなるように、私は、一人でも多くの人にこの話を伝え、カンボジアだけではなく、「自分自身」にも向き合って、考えてもらいたいと思っています。

これが、今の私の「夢」です。

